

みと新市民ホール

街道が貫通する工場のような劇場

人々が様々な場所からやってきては通り抜け、またさらに次の場所に行ってみたく
なる道のような場所。道が時には舞台になり、通りがそのまま客席になる――ある
時は演者になって舞台に上がり、ある時は観客になってめいいっぱいそれを楽しむ、
人々がつねに交流する場所。「みと新市民ホール」は、そんなことが自然に、時には
大規模で行うことのできる**現代の街道**としての建物です。

街道としての劇場

一流の芸術を担ってきた水戸芸術館と市内唯一の百貨店である京成百貨店に挟まれた
敷地という特性を最大限に活かすため、私たちは百貨店を数多くの（百）商品（貨）
が集積した文化の集積地と捉え、ふたつをつなぎ、芸術と文化の交流する街道をつ
くります。劇場やコンサートホールに**関心の薄い人でも普段から楽しめる施設**とし、
日常的な賑わいを生みだします。さまざまな方向に通り抜けられる建物は借家園
や弘道館などの観光資源や周囲の商業施設にも自然とつながっていき、まちづくり
の拠点となります。

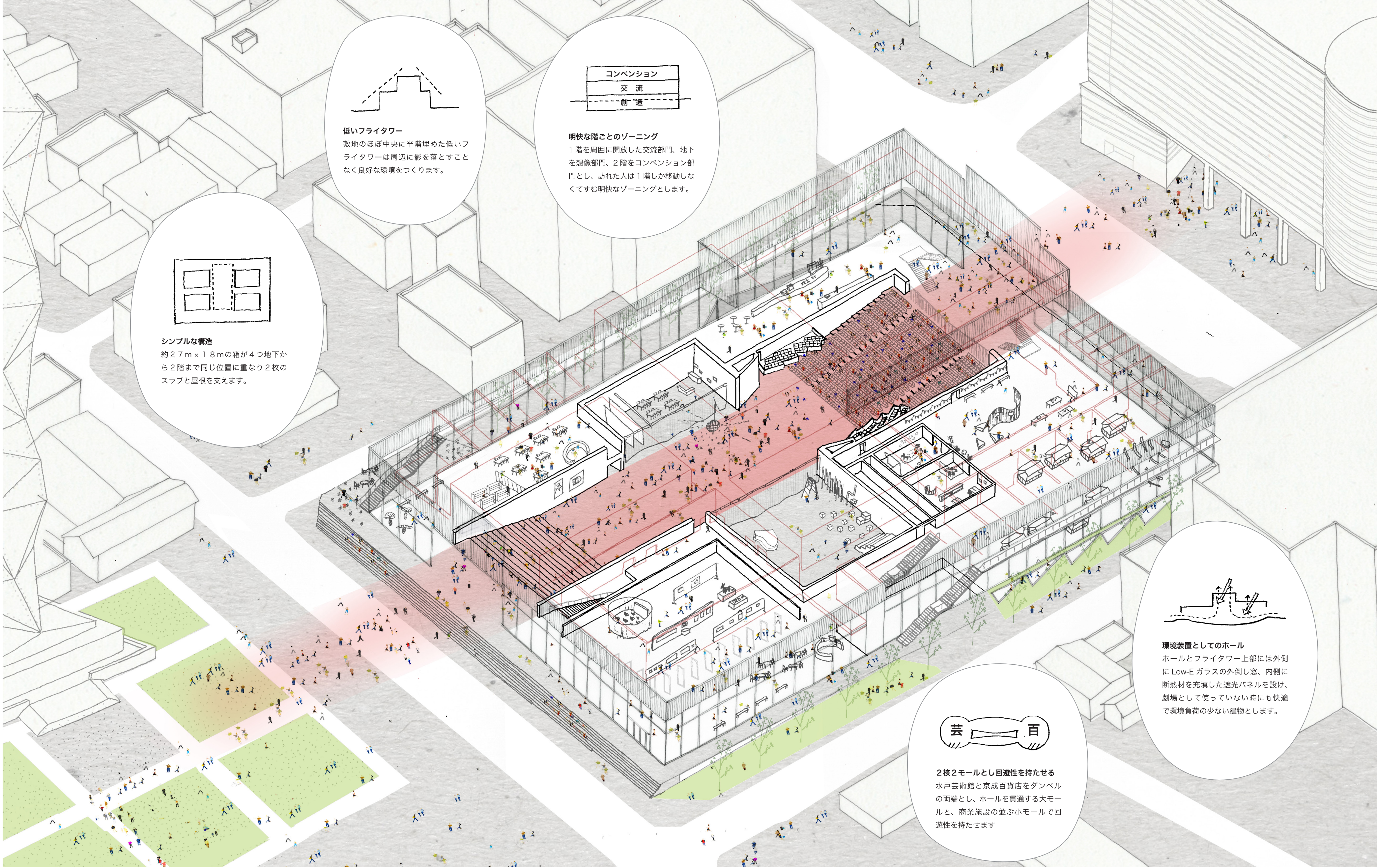
具体的には、まずホールを敷地の中心に置き、京成側にはホワイエを、水戸芸術
館には多目的ホールを置いて、それらすべてを開口部で**一直線につなぐことで谷状の
大きな道をつくり出す**。さらに敷地の高低差を活かし、家屋や搬入口などのスベ
ースを半階下げること、1階を完全に解放し、利用されにくい時にブラックボッ
クスになりがちな劇場の垣所を反転させ、常にまちにひらかれた施設とします。こ
れらはコンベンション時に最適なだけでなく、マルシェやお祭りや展示会、さらに
水戸芸術館と一体となった巨大な展覧会など**周辺施設を巻き込んだ様々な新しい使
い方が可能**です。

工場のような劇場
また、水戸芸術館がすでに隣にあることから、「みと新市民ホール」では、対照的に
作品を産みだすための工事現場と見立て、通常の格式張った劇場ではなく、ラフで
タフでパワフルな**工場のような建物**とします。現代の新しい技術を使った、ダイナ
ミックで高機能な建物です。まず、音は最良のものにするため、ホールはシュール
ボックスを基本とし、観客室やカッパルシートなど**様々なタイプが設けられたバルコニー**
で興奮と音響をさらに引き立てます。さらに上記のような様々なイベントに対応
するため、1階の椅子はオーグストラビットを利用してユニットごとに格納し大きな
階段状の空間に変形します。また、この時にも快適で魅力的に、さらに環境付加を
低減するため、天井面には完全に回転もできる二重のサッシを取り付け、自然採光
+通風換気もできるようにします。また、建物外周は全面的に大きな引き戸を採用
し、視覚的だけでなく物理的にも街に開放され、環境にも配慮した建物になります。
建物は単純でコンパクトなものとし、**可能な限りローコスト**でつくります。
ただ、ご安心を。ある意味では活気はあるけれど素っ気ない「みと新市民ホール」
ですが、ひとたび夜になると、小さな照明が魅力的にホワイエや劇場内を照らし出し、
昼とはまったく違う顔を見せます。**工場をリノベーションしたような**創的なロマン
チックな場所になります。

21世紀の劇場
「みと新市民ホール」はこれまでの公共建築のように、完成した建物を市民が受け取
るという方向だけではなく、市民が自らの手で芸術文化を創造し、**使っていくう
ちに成長していく、ある意味で未完**な、未来をつくる工場としての建物です。そ
してこれは、みとのための新市民ホールとして完全に答えたものでありながら、同
時にグローバリズムやIT技術の発展によって20世紀後半からメディア環境が大きく
変わり、誰もがコンテンツをつくり、世界に向けて発信するようになった時代の
まったく新しい公共空間、21世紀型の劇場の提案です。



大扉と大階段 水戸芸術館の広場を前庭として共有できるよう大扉と大階段を設けます



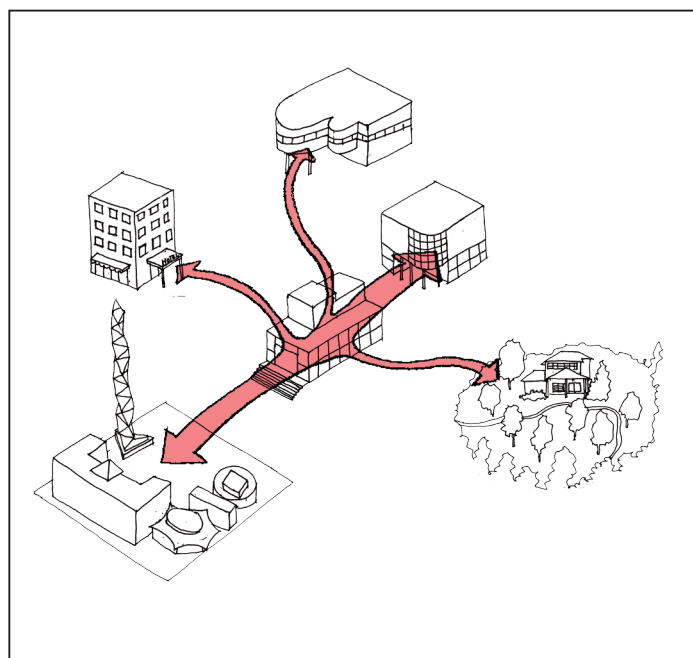
館内の活動が染み出す西側ファサード
第三のモールとなる西側前面道路（189号線）には地下を含む館内の活動が染み出します



みと街道
水戸芸術館と京成百貨店を文字通りつなげる街道。谷状の大通路はさまざまな使い方を許容します



ブラックボックスにならないホール
まっすぐつながる街道としてのホールは、祭やマルシェ、ファッションショーなどこれまでの
ホールの使い方を越えた使い方ができます



ネットワーク拠点となる道としてのホール
様々な場所から通り抜けられる道としてのホールは、周辺施設と連
動し、まちづくりの拠点となります。

